

子どもと言語発達の特徴に関する研究（２） －*Experiencing The Language Arts* (1948)を通して－

小久保 美子

A Study on The Characteristics of Children and of Language Development II :
Focus on *Experiencing The Language Arts* (1948)

Yoshiko KOKUBO

本研究は、*Experiencing The Language Arts* (1948) 収められた「子どもと言語発達の特徴」の一覧表の中から、児童期の部分を取り出して訳出したものである。

はじめに

Experiencing The Language Arts (1948) は、熟練教師、有能な司書、創造力に富んだ指導主事（フロリダの11の郡から来ている）、州部局及び州立大学の教員、州以外の顧問（フロリダ州及び他の7つの州におけるカリキュラム作成の経験者）らの手によって編まれたものであり、幼稚園から12学年までの子どもたちの言語教育を対象としている。本書に示された言語教育観は、「国語は学校全体のカリキュラムと関連している」という立場に立脚し、子どもの言語発達を促す学校での種々の経験、それに基づく单元などを挙げている。

この考え方は、時代、国こそ異なれ、「すべての教科で言語活動の充実を」を改善の第一の視点においたわが国の今回の学習指導要領の趣旨とも合致しており、今後のわが国の国語教育の実践展開に一定の貢献をなしうるものと思われる。

本研究の対象箇所は、※のところである。（以下、本書の目次から各章のタイトルを抜粋）

- | | |
|-------------------|--------------|
| 1. 序文 | 12歳～15歳 |
| 2. 謝辞 | 15歳～18歳 |
| 3. 学校と生活における国語の位置 | 6. 前置き |
| 4. 経営者の責任 | 7. 話すこと・聞くこと |
| 5. 子どもと言語発達の特徴 | 8. 書くこと |
| 4歳～6歳 | 9. 読むこと |
| ※6歳～9歳 | 10. 单元例 |
| ※9歳～12歳 | 11. 参考文献一覧 |

子どもと言語発達の特徴（6歳～9歳）

身体的, 精神的, 情緒的特徴	言語的特徴	言語発達を促す機会となる学校での経験	教師への示唆
1. とても活動的であるが、すぐに疲れる；長い間じっとしていることができないし、多くの活動の機会を必要とする；大人に押しつけられる数々の決まりに反して、一つの調和として、遊びを必要とする	1. 他の人の機会を考えず、できるだけ多くの話す“番”を持ちたがる；かなり、長い時間、7～8人のグループで作業ができる；自分の問題を解決する能力がある	1. 多くの言語活動の機会を与える小グループでの活動の時間に参加すること	1. 教師は、一日の早い時間帯に活動の時間を持つことの価値を見いだすだろう。短時間の活動は多様であるべきであり、教師は、話したり聞いたりする際、“交替で行う”という協力的な態度を発達させるために努力すべきである。
2. 概して丈夫で、健康的である。しかし、この期間、姿勢障害が明らかになる；10～12時間の睡眠を必要とする；心臓は、毒素や細菌によってたやすくダメージを受けやすい	2. 6歳～7歳の間は、参加することや自発的に始めた創造的な活動で学び、8歳では、丸暗記がより目立つようになる	2. 作業をしている間、自分たちが行っていることについて計画を立てたり相談したりする；彼らは言うべき必要があったり言うべきことをもっていたりするので、容易に話す	2. 長時間座っていることを要求する活動を避けること：子どもたちが、個人的にあるいは小グループで作業するのを促進するために、たくさんの興味を中心を与えること。
3. 小さな筋肉をコントロールするよりも大きな筋肉をコントロールするために発達した不揃いで不完全な筋肉をもっている（しかしながら、ある8歳児では、書いたり、縫ったり、織ったりするような手先の器用さを必要とする作業を行うのに十分なほど、小さな筋肉が発達している）	3. “読むことのレディネス”を見せる、また、ゲームをしたり、走ったり、取っ組み合ったり、ジャンプしたりなどをしたりしながら、言語を使う	3. 個人の目標やグループの目標を達成するのを助けるような読む活動や表現する活動を選ぶこと	3. 子どもたちは、教師の指導の下に、生活や仕事の基準を設定することができる。これは、考えることや言語のよい使用を要求する。

身体的, 精神的, 情緒的特徴	言語的特徴	言語発達を促す機会となる学校での経験	教師への示唆
4. よい聞き手である; 聞いた経験で自分自身を確認するほど, 聞いたことに影響される(これは, 軽妙さから悲しさへの度々の気分の変化の証明でもある)	4. 8歳児の平均である, 多くの副詞や形容詞を含む数千の語彙をもっている; ラジオや映画を楽しむ	4. 共有する時間の中で, 計画や経験, 達成について打ち合わせる	4. 協議と時間の共有は, 子どもたちに自分たちの仕事を計画したり評価したりする機会を与える。
5. 個人的な成長パターンによる身長と体重の伸びに, 大きな変異を見せる; 自分自身の仕事を前もって計画し, 評価する能力を見せる; 自分自身の選択を好むようになる	5. より知的に広がり, したがって, 言語面でもより自立になる; 言語能力を評価することに興味を示し, 言語能力のリストをチェックする	5. 教師や子どもたちによる詩や物語の上手な読み聞かせを聞くこと	5. 物語の時間, 教師は, 子どもたちとの間に信頼関係を築いたり, 多くの文学の型を与えたり, 文学の感覚に訴える言葉を通して子どもたちの現実の経験を深めたり広げたりする機会をもつ。自立的な読みに向けた多くの型の読みの資料は, 多様な必要や興味, 能力に応じて提供するように利用されるべきである。
6. ピアノを弾いたりダンスを踊ったりすることへの好みが発達する; 目標を達成するのに必要な練習を嫌がらずにする	6. 正しい調子で歌われた歌や上手に読まれた詩のような物事に対してますます称賛する	6. 多くの歌詞を読んだり, 歌詞の発音や発音のしかたを明瞭にしたり, 多くの歌詞を暗唱したりする機会を提供する音楽の時間に参加すること	6. 歌唱の時間に, 教師は, 明瞭な発音と発音のしかたの双方のために多くの機会を用いる。

身体的, 精神的, 情緒的特徴	言語的特徴	言語発達を促す機会となる学校での経験	教師への示唆
<p>7. おもしろがって、人をからかったり、パンチをしたり、打ったりすることをする、しかし、通常、社会的に望ましくない行動は消えていき、より正しいと認められる反応がだんだん習慣になる；どのような状況下でも自分たちが必要であると感ずることを好む；親であれ、仲間であれ、教師であれ、彼らの指導者の存在と気配りに安全を見いだす</p>	<p>7. 自発的な表現的言葉の使用を含むグループ活動への興味が増大する；教師の言葉だけでなく、顔の表情や声の調子に敏感になる</p>	<p>7. 読んだり、書いたり、聞いたり、話したりすることを改善したり、発達させたりするために必要な技能を練習する</p>	<p>7. 一日は、それぞれの子どもが、現在必要とする技能を習得することへの必要を感じ、言語を使うのを助け、励ますような豊富な経験で満たされるべきである。</p>
<p>8. 大人によって影響されないような、あるいは、仲間によって拒絶されないような異なる人種や異なる社会的立場の友達と親しくなる；6歳、7歳の年齢では、差別なく一緒に遊ぶ</p>	<p>8. グループの話し合いや計画に、ますます協力的になり、責任感を表す</p>	<p>8. 遊びの時間、自発的に言語技能を使用する</p>	<p>8. 教師は、遊び場での子どもたちの自由な会話に耳を傾けるけれども、子どもや子どもの言語能力に関する洞察を得る。</p>
<p>9. 物事や人々に興味をもつ；所有欲があり、物を収集したり所有したりすることに自然な興味をもつ</p>	<p>9. 現代や昔の時代の人々について読んだり話したりすることに興味を持ち始める</p>	<p>9. 現代や昔の時代の家庭生活についての物語を教師と一緒に共有する</p>	<p>9. 教師は、本や絵や博物館への見学などを通して過去を説明する機会を提供すべきである、そして、言語技能を高めるために、あらゆる有効な機会を利用すべきである。</p>

身体的, 精神的, 情緒的特徴	言語的特徴	言語発達を促す機会となる学校での経験	教師への示唆
10. 現実主義や客観性への傾向を示しながら, 原因や条件における科学的興味を表し始める; ユーモアへの鋭い感覚をもつ; こっけいな状況や不調和を楽しむ	10. 詩を楽しんだり, 収集した物について話し合うのを好んだりする; 動物や自然の様相についての物語; 漫画や妖精物語を楽しむ; ユーモラスな性格描写や状況; カタログや大人の雑誌を眺める	10. 話し合いのための興味ある資料を提供しながら, 語彙を増やし, 意味を豊かにする映画や映写スライドから利益を得る; 個々の興味に依る調査を通して黙読の能力を伸ばす	10. 興味を提供するために, 教師によって映像や他の資料は試写されるべきである。
11. 他の人に反応する能力を示す; 自分自身の自発的な作業に全力を傾ける; 注意の範囲が増大し, 保存しておいた活力を呼び寄せることができる	11. 上手に聞く, あるいは, 短時間の間, 他の人を楽しませることができる; プログラムの計画を立て, 評価することを好む	11. 同年齢の子どもたちとの間で, 言葉で共有する手段である集会のプログラムを楽しむ	11. 提示されたどのプログラムも, 言語経験に向けて注意深い計画と準備をもつべきであり, 言語技能を高めるために利用されるべきである。
12. 健康的な食欲をもち, 成長のために十分な食べ物を必要とする	12. 多くのランチルームのような場で作り出される, 群衆による騒々しいおしゃべりに刺激を受ける	12. ランチルームでの時間を通して, 会話や容認できる社会的行動の日々の実践の機会を与えること	12. もし教師が, ランチルームで, 異なるグループで座る習慣を形成することができるならば, 自然な方法で, 子どもたちに食べる間楽しく会話をする方法を教えることができる。学校は, 防音装置を施したカフェテリアで, 正しい言語習慣と社会的行動の発達において子どもたちを助けることができる。

子ども言語発達の特徴（9歳～12歳）

身体的, 精神的, 情緒的特徴	言語的特徴	言語発達を促す機会となる学校での経験	教師への示唆
1. 大変活動的で、行動的な生活になるが、休息や息抜き、適当な量の睡眠によるバランスのとれた身体生活が必要となる	1. 同性や異性の他人と最も自由に会話をする；家族やクラスの会話にたやすく参加し、現実の生活の話題に興味をもつ	1. 解決すべき問題や決定すべき結論がないような私的な会話を含む会話や話し合いに参加する；解決すべき問題や決定すべき結論がある場合の明瞭な話題や問題に関する話し合いに参加する	1. 言語は基本的に話し言葉である。書くこと及び読むことは、話すことに依拠した二次的発達である。小グループでの話し合いを提供することは、すべての子どもたちが自分自身をより自由に表現するのを助ける。
2. 9歳までに小さな筋肉をかなりコントロールできるようになる	2. 手紙を書いたりするというような、自分の考えを表現するために書く能力、あるいは、新聞に向けて書くといったような、経験を共有するために書く能力をもっている	2. 私的な書き置き、ニュースレター、お悔やみの手紙、感謝の手紙、お祝いの手紙、招待状及び返事などのようなフレンドリーな手紙；注文書、情報や試供品、申込書のようなビジネスレターを含んだ手紙を書くこと	2. 綴り、習字、読むこと、話すこと、聞くことは、よりよいコミュニケーションの基本目標に貢献する唯一の価値をもつものである。ほとんどの子どもは、10歳以前は、ペンとインクで書くための神経と筋肉の調和が十分に発達していない。
3. 通常、機敏で、活動的で、多くの物事に関して好奇心が強い。彼らの興味は、時に大人を特徴付ける退屈や意欲喪失ということからは自由である	3. 本だけでなく雑誌も含めた広い読書の結果として、急速に豊かになる語彙をもっている	3. 教師やグループの他のメンバーによる物語や詩の読み聞かせを聞くこと；一斉朗読によって他の人達に読んで聞かせるという活動を通して参加すること；黙読すること	3. 誤用の習慣を打ち破る最善の方法は、正しい習慣を打ち立てたいという動機を与えることと、習得を確かなものにする絶え間ない練習と度々の適用である。多様な目的的活動は、興味を増大させ、能力に応じて言語技能を発達させる手段を提供する。

身体的, 精神的, 情緒的特徴	言語的特徴	言語発達を促す機会となる学校での経験	教師への示唆
4. 性によって, 成熟の速さが異なる。生理学上, 11歳の女兒は, たいてい男児より進んでいる	4. 通常, 喜びや楽しみのために読める能力をもっている; 広い範囲の読みの能力をもっていることは, この年代であることの証拠である	4. 情報や楽しみのために本や雑誌を読むこと	4. 子どもたちの各グループの能力, 興味, 達成度の範囲は, いろいろなレベルの, 広く豊かな読みの資料を与えることを必要とする。
5. 行動と興味において性差がはっきりする	5. 楽しむ物語が異なる; 英雄物語への愛好を示し, かなりの理解でもって世界の出来事を議論する	5. 読んだ本, 聞いたラジオ, 観た映画のレビューを含んだ, 口頭や書きことばの報告をすること	5. 表現は奨励されるべきであるが, 強制されてはならない。改善したいという欲求は, 学習への最も重要な段階である。成功への願望で満たされた機会は, 満足のいく達成を可能にするだろう。
6. 通常, よく発達したユーモアの感覚をもっている	6. 自分たち自身に関するジョークや驚き, 物語のユーモアを楽しむ	6. ジョークや逸話, 以前に聞いたり読んだりした物語, 自分自身や他の人の経験の物語; 想像的な物語を話したり書いたりすること	6. 学習が急速に進むこの期間, 9, 10歳児のユーモアの感覚は, より進んだ言語技能に基づく作業を取り入れるのに用いられるとよい。ユーモラスな資料を通して, 作品, 綴り, 書くことの質の改善がかなり進むだろう。
7. 公平なプレーへの自立性や自発性, 興味を示す(同時に, 少年は, 特に, からかうこと, 競争, 戦いを楽しむ)	7. 行為の経過を計画する能力や, 最小の大人の助言で満足の結果に至る能力を見せる	7. 劇を計画すること; 登場人物や場面を選ぶこと; 台本を書くこと; プログラムを提供し, 評価すること	7. 作品や報道を書くだけでなく, 人形劇の作品を書いたり制作したりすることは, 獲得した技能が研ぎ澄まされる活動である; 児童の分析や評価は, 自分自身を, 技能を適用する方へと向ける。

身体的, 精神的, 情緒的特徴	言語的特徴	言語発達を促す機会となる学校での経験	教師への示唆
8. グループの評価や称賛に強く影響される。彼らは、行動や態度、服装に対する尺度として、自分の年齢集団の仲間を用いる	8. 自分たちのために計画されたプログラムに喜んで参加する；自分たちで作った秘密や習慣を好む	8. 社会的礼儀を議論すること；言語技能に対する標準を設定すること；クラブやその他の学校活動を計画すること；ミステリーやサスペンスなどで自分たちの興味を満たしながら物語を読むこと	8. 個人や集団に関する定期的な教師と児童の評価は、不可欠である。この評価を作る際、教師と児童は明確な目的に照らして達成度を研究すべきである。
9. 幼い子どもたちの世話を責任もって引き受けながら、家族的なグループの一員として参加する	9. 家族旅行について調べたり話したりしたいと思う本や地図を含んだ資料を所有することを楽しむ；幼い子どもと一緒に物語を共有すること	9. 情報を得たり共有したりすること；自分たちの仕事に関わる家庭や学校、地域の大人にインタビューすること；幼い子どもたちとの活動を計画すること	9. 子どもたちはグループ活動に貢献する多くの機会を通して所属感覚を発達させる；子どもたちは、自分たちの仲間や幼い子どもたちとの間でリーダーシップを発達させる。
10. 家庭や地域を越えて、国家や世界にまで興味が広がる	10. 役に立つ道具として、他の時、他の場所、他の人々の経験を得る手段としての読むことを認識する	10. 学校や教室の図書として、参考文献や楽しみのための本、その他の資料が使用できるよう計画すること	10. 少年や少女は、読みの資料や情報、自分たちの興味の主題を探究したり探したりすることを奨励されるべきである。；自分たちの問題を解決するために言語技能を用いる際、自分自身で、またはグループ内で、自分たちの長所や弱点を見だし、評価する。

身体的, 精神的, 情緒的特徴	言語的特徴	言語発達を促す機会となる学校での経験	教師への示唆
11. どの年齢集団も最も広い範囲の興味をもっている; 想像的な劇への興味が減退し, 事実や現実的なもののへの興味が増大する	11. 開拓時代の“アメリカ西部”の物語, 真実の物語, 漫画, 冒険の長編物語を楽しむ; 事実の資料を含んだ本に, より興味をもつようになる; 旅行の物語や伝記を読み始める; 冒険や科学, 自然に関する本が, この集団には人気がある	11. 公立図書館を含め, 地域の資料の使用を通して, データを集めたり, 問題の答えを見つけたりする際の経験を得るために, 地域に遠足に行くこと	11. 教師の目的と児童の目的は, 同じである必要はない。児童は, 与えられた活動や仕事に対する内なる責任感を発達させる際, 教師の助けを必要とする。児童との遠足を計画し評価することは, 言語技能を刺激し利用する際に責任感を行行使することから, 重要なものとなる
12. メカニクスや科学, 自然現象のような領域において, 物事がどのように作られ, どのように機能しているかということの事実に大いに興味を抱く	12. 証拠を慎重に考え, いくつかの資料から確信される情報に基づいて, 結論を下すことができる	12. 事実を打ち立てたり発見したりするための科学的な実験を計画すること; 批判的思考を共有する手段として説明すること; 権威の根拠として本を用いること; 経験を評価し, さらなる研究に対する“手がかり”を示すこと	12. 子どもたちは, 注意深い教師のガイダンスでもって徐々に自己指導的になるべきである。子どもが自分自身を助けるよう支援することは, すべての教師の責任である。
13. 収集することの満足を見いだす	13. 仲間からの質問に答えるために, コレクションに関する記事や話を提示することを通して, 学校で自分たちのコレクションを共有することを楽しむ	13. 絵や地図, 表などのような視覚物を用いること, グループで自分たちのコレクションについて話し合うこと	13. 子どもたちが利用できるように趣味に関する本を作ることによって, 教師は, 子どもたちの趣味への興味をかき立て, 広げることができるかもしれない。教師は, 熟達した言語訓練によって, 子どもたちが自分のコレクションを他の人達と共有するのを支援することができる。子どもたちと一緒に, 資料を操作したり整えたり, 自分のコレクションを展示したりする計画を立てること。

身体的, 精神的, 情緒的特徴	言語的特徴	言語発達を促す機会となる学校での経験	教師への示唆
14. ギャングやクラブ, 自分たちの年齢で構成された秘密のグループに, より興味を示す	14. 自分たちのクラブ活動の様々な様相に対して責任を負う; プログラムを計画したり提供したりすることに参加する, 重要な話題に関する話, クラブプロジェクトに関する口頭や活字の報告を作る	14. 学校やコミュニティのクラブに参加すること; 他人と一緒によりよく生活するために語彙と能力を増大させること	14. 子どもは活発で明敏であるから, 教師は, 子どもたちと一緒に, 価値あるグループ活動において子どもたちの“ギャング”に関する興味を利用するよう, 計画することが必要である。
15. 初級の子どもたちより, より広い注意の範囲をもつ; 一人で行った作業から確かな満足を得る, しかし同時に, 協同的なグループの企画を楽しむ	15. コレクションに関する自分の本を作ることに興味をもつだけでなく, 新聞やクラスのスクラップブックに対して, 記事や絵や下書きで貢献することに興味をもつ	15. 創造的な芸術を楽しむこと; 文学や音楽, 絵画によって刺激された考えや感情を創造的に表現すること; 本の中の好きな場面や登場人物のドラマを作ること; 著作の読書を通して連想された壁画の作業をすること	15. 共感的で知的な教師が行う言語発達に向けての指導には, 社会的に受け入れられる個人を産出することが求められる。
16. 自分自身の個人的な達成に関心をもつ, また, 成功や失敗に強く影響される; 資料を丸暗記する際, 好んで大人と比較する	16. 自分の更なる成功に向けて口頭や文字の言語を使用することに対する発展性	16. 司会のような行為を含んだ会合や話し合いグループへの参加; クラスの会合やクラブにおいて, メンバーとしての役割を担う; 会議の議事録を書くこと; 学校集会において, 遂行者として, あるいは聴衆の一人として行為すること	16. 一日中静かに座っている子どもは, 声を出したり攻撃的であったりする子どもよりは, 社会的な生活における指導をより多く必要としているかもしれない。

身体的, 精神的, 情緒的特徴	言語的特徴	言語発達を促す機会となる学校での経験	教師への示唆
17. 他の人の考えや信念に気付いたり関心をもったりするようになる	17. 声に出して読んでみたい, あるいは暗唱したり同じ年齢のグループと話したりしてみたい自分の好きな詩や物語, 本をもつ	17. 電話を使うこと; インタビューをしたりされたりすること	17. 情報を求めたり与えたりするために電話を使うことは, 家庭で自然に言語を使う機会となる。声の調子や言葉の選択は, 効果的な電話の要素である。
18. 情報を求めたり与えたりするために言語を必要とする	18. 説明や指示をする際は正確さと簡潔さが必要であることに気付く	18. ある場所に行ったり, あるものを作ったりするような特定の目的を含んだ口頭や文字での指示や説明を与えること; 物事がどのように為されたり作られたりしたのかを説明すること	18. すべての教師は, 子どもが真っ直ぐに考え, 自分の考えを効果的に伝え合うのを支援することに心からの興味を持つべきである。
19. リズム感覚, 音, 識別力, 連想的な記憶が大人の発達に近づく(それらの保持力の範囲は, この年齢で最大になる)	19. 非現実的な状況よりも, 現実生活を伴ったアクションや冒険, ミステリーのラジオ番組を熱心に聴く	19. ストーリーテリングのレコードを使うこと。(ストーリーテリングの芸術は準備に多くの時間を要するから, ストーリーテリングのレコードは価値をもっている。また, 人気が高まっている。選択のための教育的な基準が設定されなければならない)	19. 教師の言葉が多すぎると, 自発的に, 興味をもって参加しようという児童の気持ちが減退する。しかしながら, 上手なストーリーテリングは, 国語科のすべての教師が習得の努力をすべき技術である。

(本書は, 日本国語教育学会会長の倉澤栄吉氏より貸与されたものであり, ここに改めて感謝申し上げます。)

おわりに

本書における発達の捉え方の特徴の一つに、年齢区分がある。冒頭部に掲げた本書の目次を見ても分かるように、4～6歳を受けて、6歳～9歳までが示され、9歳を受けて9歳～12歳までが示され、12歳を受けて、12歳～15歳までが示され、15歳を受けて、15歳～18歳までが示されている点である。これは、身体や能力の成長・発達というものは各年齢で截然と分けられるものではなく、個人差が大きいという発達観や能力観を示すものであろう。発達や能力における個人差をどう捉えるかというのは、指導上極めて重要であり、この点が狭量に過ぎると、子ども観が窮屈になり、負の側面から子どもを捉えがちになりかねない。そうになると、却って、子どもの成長や発達を阻むことにもつながってしまう。

今回の翻訳を通して、言語発達も含め、児童期の成長・発達がいかに幅広く著しいかを改めて認識させられた。特に、「自主性」や「計画性」、「自己評価力」や「自己指導力」を育成すること、幅広い読書を提供し語彙を豊かにすること、表現活動は自己の欲求に基づくものとして設定することが重要であることを再認識するに至った。これらの点は、今期改訂された国語科学習指導要領においても重視されていることであり、その意味において、本書が今日においてもなお意義をもつものとして示唆に富んだものであるといっても過言ではないだろう。